

初めての植物観察覚書・冬編 H.28年1月24日開催

初めての植物観察で見られた植物について、備忘録的に記録に止めておきます。この覚書は、行事の記録ですが、どなたでもホームページ <http://www.museum.bmori.jp/html/ibaraki/index.html> 上からダウンロードいただけます。また、博物館三階のレファレンスルーム内に、バックナンバーと共に置いておきますので、ご自由にお持ちいただけます。次の観察会でも配布するように致します。観察会では、私の不勉強からわかりにくかったり、また、間違っていたりすることも時々(しばしばかも?)あるかと思えます。そういったものは、この覚書で訂正補正させていただきます。

さて、この日は、40年振りという大寒波でした。徳島ではマイナス5℃になったという話も聞きましたが、それでも、皆さんじっくりと観察をしていただけて、とても嬉しかったです。いつものように、中級クラスの方にも解説をしていただきながら観察をしました。ありがとうございました。

まず、最初に観察したのは、博物館の建物の入り口にあるハナゾノツクバネウツギです。ここでは葉の付き方について確認しましたね。対生・互生・輪生などの付き方がありました。続いて植え込みの中に生えていたコハコベの仲間の観察です。この類はミドリハコベやコハコベの識別が難しいですね。続いて図書館前のケヤキを観察しました。このケヤキでは、樹皮について解説しました。樹皮をめくると、いろいろな虫が出てきたのを覚えているでしょうか? 続いて階段を登り、途中のシナマンサクを観察しました。例年ですとそろそろ開花している時期ですが、今年はまだでした。その後、チチコグサモドキを見て、満開のロウバイ(ソシンロウバイ)を見ました。こちらは、まさに花の盛りでちょうど観察に適した状態でしたね。付近の植え込みの中には、シダ類が色々ありました。それらのシダを使って、葉の裏にある孢子嚢群についてのお話をしました。いよいよ階段を登り切ると、芝生広場につきます。広場では、驚いたことに紅梅が満開でした。今年は、暖冬のために、梅の開花が随分と早いようです。満開の紅梅に雪がズンズンと積もっていましたね。梅の観察の後は、遠路を歩きました。遠路沿いでは、コンクリートの壁にたくさんのシダがついていました。名前はノキシノブでしたね。カスケードの付近から山道に入りましたが、この頃には雪が本降りですりは一面真っ白でした。



ハナゾノツクバネウツギ



コハコベ



ケヤキの樹皮をめくると



チチコグサモドキ



シナマンサクの観察



ロウバイ



シダのソーラスの観察



紅梅が満開

森の中では、フユイチゴの話などを中級クラスの田中さんにしていただきました。峠付近では、ネズミモチやモチツツジなどを観察。峠を越えたところでは、どっさり育ったウラジロについて、観察しました。その後は、カスケードを下り、出発地点の噴水まで戻って解散いたしました。森を抜け、階段を下ります。途中では、センニンソウの蔓がありましたね。小羽片の柄がものに絡みついていた。さらに下ると、ヤマノイモの仲間の果実があって、中に薄いタネが入っていました。また、ツバキとサザンカの違いについても考えてみました。文書館の前まで下ってきてからは、ソテツを使って裸子植物の観察。駐車場の前では、マンサクの仲間を見ましたが、やはり開花していませんでした。その後は、噴水まで歩いて海解散しました。皆さん雪の中お疲れ様でした。



ノキシノブ



フユイチゴの観察



ウラジロの観察



センニンソウ



ヤマノイモの仲間



ツバキ



ソテツ



マンサクの仲間

質問コーナー

行事の間に頂いた質問にお答えします。ご不明の点は、メールなどでもお問い合わせください。

Q オウバイではなくて、ウンナンオウバイでは？

A: 観察会の時に、私がわからなかったけれど、参加者の皆さんから迎春花であると教えていただいた花があって、それがオウバイだったという話をしましたところ、中級クラスの白井さんからオウバイではなくて、ウンナンオウバイではないかというお尋ねを頂きました。慌てて調べましたところ、観察したのは、オウバイではなく、オウバイモドキ（ウンナンオウバイ、学名：*Jasminum mesnyi*）であることがわかりました。オウバイモドキは、常緑ですが、オウバイは落葉性の別種でした。失礼しました。



ウンナンオウバイ

Q スマホでの撮影はどうすれば？

A: 中級クラスの山本さんからスマホでの植物撮影について情報を頂きましたので添付します。

「近年、携帯電話・スマートフォン等は、組み込まれるカメラの撮像素子の性能が飛躍的にアップし、またその画像処理用 IC 及びソフトウェアの技術革新により、気軽にデジタルカメラ同等の写真を撮られるようになりました。それに伴い、ユーザーの撮影補助をするべく周辺機器が多数発売されました。マクロレンズにとっても、非常に多数の商品が発売されております。

amazon さんで【スマホ レンズ】と検索すると、(http://www.amazon.co.jp/s/ref=nb_sb_noss_2?_mk_ja_JP=カタカナ&url=search-alias%3Daps&field-keywords=スマホ+レンズ) 面白いように商品が列挙します。従いまして、ご自分のセンス、利用法に合わせた商品を探ることとなります。取付方法の多くはクリップタイプですので、簡単に脱着可能です。ただし、元々のレンズの焦点距離が短いのでワークエイスが短くなり、ピント合わせにコツが必要となります。(最初は戸惑いますがすぐに慣れてきます)(山本)」

お問い合わせは以下まで。

〒770-8070 徳島県徳島市八万町徳島県立博物館 Tel 088-668-3636 F A X 088-668-7197

茨木靖 (いばらぎやすし) lbaragi-yasushi-1@mt.tokushima-ec.ed.jp

徳島県立博物館では、学芸員は交代勤務ですので年末年始以外は、誰かが居ります。植物については私が不在の場合、小川上席学芸員がいれば、ご質問にお答えできます。お気軽に博物館にご連絡ください。メールも大歓迎です。